

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 国語科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・登場人物の相互関係や心情の変化を、叙述をもとに自分の言葉で表現することが苦手な児童が20%程いる。
- ・言葉の理解が難しい児童が30%程いる。言葉を使って文章にすることが苦手な児童も多い。
- ・筆者が何を伝えたいのか理解し、要旨にまとめることが苦手な児童が半数程いる。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・相手に分かりやすく伝わるように文章全体の構成を考え、意見文や作文を書くことができるようにする。構成の過程で思考ツールを活用し、文章全体を見通して構成し、構成の効果を考えることができるようにする。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・登場人物の相関図を書く。
- ・短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる。
- ・関連図書を読み、自分の考えを発表する。筆者の考えを捉え、感想文集を書いたり要旨を書いたりする。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付ける。
- ②宿題の定着とスキルタイムでの漢字や言葉の復習を行う。

#### <検証方法>

- ①作文や日記、メモ等で把握する。思考力、判断力、表現力の平均87点から90点に引き上げる。
- ②漢字小テストで確認する。平均点70点以下の児童を70点以上にする。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ・短い文でも構わず、どんどん浮かんだことを書かせる習慣を身に付けたことにより、授業中に自分の思いや考えを考えることが素早くできるようになった。

#### <課題>

- ・表現力の正答率を上げることはできなかった。
- ・家庭学習が定着しなかったため、漢字小テストを目標値に上げられなかった。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・文を書く時も既習漢字を積極的に使うように指導する。
- ・家庭学習を習慣化させることで、学校で学んだことの定着を図る。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・既習漢字の定着。漢字小テストを目標値に上げる。

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 社会科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島に住んでいるため、日本国全体に対する意識や触れ合う機会が少ない。</li> <li>・知らない地域、初めて聞く地域になじみもなく興味関心が低い児童が30%程いる。</li> <li>・自分たちが食している食料やその生産についての意識が低く、自分事としてとらえられていない児童が30%程いる。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地見学の機会、ゲストティーチャーによる講話、実物に触れる機会を増やす。</li> <li>・地域の発展に尽くした人々や先人の働きを日常とつなげることで、理解を深めさせる。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳や地球儀を活用して、自分の目を使って調べ、まとめさせる。</li> <li>・ICT機器も併用して活用する。</li> <li>・自分がその土地に住んでいたら、どんな工夫ができるか考えさせる。自分たちの環境と比較する。</li> <li>・自分たちが住んでいる小笠原の地と比べながら、日本全体の食料生産について目を向けさせる。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①ICT機器、資料集、地図帳を併用して活用する。</p> <p>②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①資料等の活用方法を知り、学習の中で生かしているか確認する。知識、技能の平均を84点から87点に引き上げる。</p> <p>②比較できるように小笠原村の資料を用意する。思考力、判断力、表現力の平均87点から90点に引き上げる。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①ICT機器、資料集、地図帳を併用して活用する。</p> <p>②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①資料等の活用方法を知り、学習の中で生かしているか確認する。知識、技能の平均を84点から87点に引き上げる。</p> <p>②比較できるように小笠原村の資料を用意する。思考力、判断力、表現力の平均87点から90点に引き上げる。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①ICT機器、資料集、地図帳を併用して活用する。</p> <p>②当事者意識をもったり、小笠原の土地と比較したりして学習に取り組ませる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①資料等の活用方法を知り、学習の中で生かしているか確認する。知識、技能の平均を84点から87点に引き上げる。</p> <p>②比較できるように小笠原村の資料を用意する。思考力、判断力、表現力の平均87点から90点に引き上げる。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器、資料集、地図帳を併用して活用することによって、知識、技能の平均を3点引き上げることができた。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか小笠原村の資料を用意することができなかった。思考力、判断力、表現力の平均9割近くだった。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器、資料集、地図帳を併用して活用することは効果的だった。関連の資料「NHK for school」などで確認する。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がその土地に住んでいたら、どんな工夫ができるか考える。</li> </ul>			

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 算数科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査では、どの領域においても全国平均を上回っていた。「小数」「面積」の単元で課題が見られた。
- ・小数のかけ算や大きな面積の量感を養う必要がある。
- ・より具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化する必要がある。
- ・個人差については個別の支援が必要である。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・数の表し方のしくみに着目して、数の相対的な大きさを考察させることで、数と式の表現や計算などに生かせるようにする。
- ・数を構成する単位から、相等及び大小について考察させることで、数の意味や表現を多様に考えられる機会を増やす。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。
- ・具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。  
また、達成度を記録し、把握しておく。
- ②自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。

#### <検証方法>

- ①授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。
- ②ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ・授業の始めに、既習内容の確認を行うことによって、基礎的な力の定着を図ることができた。

#### <課題>

- ・思考力、判断力を試す問題に課題があった。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・思考力、判断力に課題があるので、基礎的な計算の定着を今まで以上に行い、更に既習事項を使って課題を解決する取り組みが必要である。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

既習事項を使って課題を解決できる、さらに表現することができる。

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 理科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・地域性により、アブラナの花やメダカ等実物を見せにくく、実感できない現状がある。
- ・自分たちが住む環境が日本列島の気象条件と異なる点大きい。
- ・問題に対して、仮説、実験、予想、結果、考察などの問題解決型の学習サイクルに慣れていない児童が半数程いる。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・試行錯誤の体験を通して、児童が試行繰り返し、次第に見通しを立てて、技能に関する問題の解決策や方法を見いだす。
- ・児童一人一人の技能の習得状況を見取るために、ペアやグループの中で一人ずつ観察・実験を行い、手順通りにすすめられたかについて、相互評価を行う。

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・実物を見たり、使用したりして学習が進めにくい単元については、ICT機器を使って補う。
- ・仮説や予想を必ずもたせて、どうやって確かめていくかを考えさせる。
- ・台風については身近な存在なので、そこから自分たちの地域と他の日本列島での気象条件を比較させる。
- ・理科の学習において、問題解決型の学習サイクルを学ぶ。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ① ICT機器を使って、実物を見せにくい単元を補う。
- ② 理科の学習において、繰り返し問題解決型の学習サイクルを行う。

#### <検証方法>

- ① ワークシートやノートから学習状況を把握する。知識、技能の平均を87点から90点に引き上げる。
- ② 実験の結果、考察、振り返りを確認する。思考力、判断力、表現力の平均82点から85点に引き上げる。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

理科の学習において、繰り返し問題解決型の学習サイクルを行うことによって、思考力、判断力、表現力の平均3点引き上げることができた。

#### <課題>

- ・その時は覚えていても半年、一年経つと忘れてしまう児童も多く、復習を定期的に行わなければいけない。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・繰り返し問題解決型の学習サイクルを行うことは効果的だったので引き続き行い、既習事項の復習も行う。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

問題解決型の学習サイクルをもとに学習を進めることができる児童。

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 音楽科〉

<p><b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。</li> <li>・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。</li> <li>・響きのある歌声で歌うことや、音色や響きに気を付けて楽器を演奏することに対する意識をさらに高めていく必要がある。</li> </ul>	
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合奏を班や学級全体で取り組むことで互いの良さを認め合うことや、振り返りを次の活動に生かす児童が増えた。</li> <li>・歌唱やリコーダー活動は2学期のみのため、基礎・基本を身に付ける必要がある。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。</li> <li>・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての理解を深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴にふさわしい表現を考えて表現することができるようにしている。</li> <li>・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。</li> </ul>	
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について理解を深めたり、それにふさわしい表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての理解やふさわしい表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読譜指導と並行して楽譜を見て気付いたことを個人で考えたり共有したりする場面を設けたことで、それらを表現に生かす姿が見られた。</li> <li>・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習得した知識や技能を次の学習に生かすことが難しい場面がある。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。</li> <li>・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出する力に個人差があり、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりすることや、ICTを活用することなど手だてを工夫する必要がある。</li> </ul>
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる児童。</p>	

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 図画工作科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 表しいものに合わせて材料や道具などの使い方のさらに工夫できるようにする。
- ・ 自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 材料や道具などの使い方を工夫したり、以前学習したことを生かしたりすることができている。
- ・ 発想が広がるようなテーマや導入の工夫が必要である

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用したり、工夫している児童の活動を紹介したりする。
- ・ 自分の思いや気持ちを主体的に表すことを試せるような活動の場を設定する。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方や工夫している児童の作品を紹介して表し方の工夫のポイントをおさえる。
- ② 手や体を大きく動かす活動など、体全体の感覚を通して気持ちを開放しながら作品をつくるような場を設定する。

#### <検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品観察。そのような活動をした時に全児童がある程度の表現の深まりを体験できるようにする。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ・ 基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・ 手や体を大きく動かす活動など全体の感覚を通して行うような活動ができた。

#### <課題>

- ・ 自分の表したいものに合わせて様々な工夫や発想をさらにできるようにする。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。
- ・ 自分で発想したり、考えたりするのが得意な児童が多いので、さらに自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができるようにする。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

自分の思いや気持ちを重ねて表現を深めることができる児童。

**〈〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 家庭科〉〉**

<p><b>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科の学習は、すべて自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。</li> <li>・手縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。</li> <li>・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記載なし</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した知識・技能について家庭実践レポートを単元ごとに行っている。</li> <li>・ICT活用して、繰り返し復習できるような環境づくりをしていく。</li> <li>・練習の時間を十分にとっている。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;方策&gt;</p> <p>① 一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用させる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>① 作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにする。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題の確認。調理実習で学習したものを家庭で作ることや習得した裁縫の技能を用いてミニ作品を製作できるようにする。</p> </td> </tr> </table>		<p>&lt;方策&gt;</p> <p>① 一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用させる。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>① 作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにする。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題の確認。調理実習で学習したものを家庭で作ることや習得した裁縫の技能を用いてミニ作品を製作できるようにする。</p>
<p>&lt;方策&gt;</p> <p>① 一人一台のタブレットに、手縫い・ミシン縫いの動画を載せ、生徒が自分の分からないところを、自分のタイミングで視聴できるような環境づくりを行う。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題に取り組みせ、生活の中で活用させる。</p>	<p>&lt;検証方法&gt;</p> <p>① 作品の観察と技能テストを行う。全児童が、手縫い・ミシン縫いの技術を正しく身に付けることができるようにする。</p> <p>② 家庭実践レポート、長期休業中の課題の確認。調理実習で学習したものを家庭で作ることや習得した裁縫の技能を用いてミニ作品を製作できるようにする。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>&lt;成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「縫う」ことに対して苦手意識をもたず、主体的に取り組んでいた。</li> <li>・手縫いの技能が定着していた。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に応じて、縫い方を変える等の応用力がつかなかった。</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縫い方は、定期的に行わないとやり方を忘れてしまうため、帯活動で行えるような工夫をする。</li> <li>・家庭実践を含め、技能を活用する時間を十分にとる。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>基本的な技能を応用して、学習を深められる児童。</p>			

**〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 体育科〉**

<p><b>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が10%程いる。</li> <li>・運動での自分の動きがどのようになっているのか意識せずに体育の学習を行っている児童が30%程いる。</li> </ul>			
<p><b>2. 課題改善に向けた取組状況</b></p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育学習のポイント、振り返りのポートフォリオ化を図る。</li> <li>・各単元で児童の学び合い活動を取り入れ、活動を見合ったり、気づきを伝え合ったりして、自分の動きを振り返り、改善できるようにする。</li> <li>・運動が単調にならないように、運動を得点化したり、ゲーム化したりする。</li> </ul> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。</li> <li>・1時間の流れを示し、見通しをもたせる。</li> <li>・ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。</li> </ul>			
<p><b>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</b></p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。</p> <p>②1時間の流れを示し、見通しをもたせる。</p> <p>③ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>① 普段の授業の取り組みから意欲が低い児童が10%から0%になるようにする。</p> <p>② 身体の動きのデータを活用して、変容を確認できる時間を設定する。運動での自分の動きを意識しながら学習に取り組む児童を10%増やす。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。</p> <p>②1時間の流れを示し、見通しをもたせる。</p> <p>③ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 普段の授業の取り組みから意欲が低い児童が10%から0%になるようにする。</p> <p>② 身体の動きのデータを活用して、変容を確認できる時間を設定する。運動での自分の動きを意識しながら学習に取り組む児童を10%増やす。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行う。</p> <p>②1時間の流れを示し、見通しをもたせる。</p> <p>③ICT 機器を効果的に活用し、自分の動きを確認したり、参考になる動きを見たりする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>① 普段の授業の取り組みから意欲が低い児童が10%から0%になるようにする。</p> <p>② 身体の動きのデータを活用して、変容を確認できる時間を設定する。運動での自分の動きを意識しながら学習に取り組む児童を10%増やす。</p>		
<p><b>4. 検証結果(成果と課題)</b></p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で音楽を流し、楽しみながらゲーム等につながる運動を行ったり、1時間の流れを示し、見通しをもたせたりすることによって、児童の学習への意欲が上がった。</li> </ul> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	<p><b>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き今年度行った方策を行い、運動することが好きな児童を増やす。</li> </ul>		
<p><b>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</b></p> <p>楽しみながら、自分も友達も運動能力を高める児童。</p>			

## 〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 外国語科〉

### 1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・児童によって学習意欲に差がでてきている。意欲が低い児童が30%程いる。
- ・聞き取りや読み取りが苦手な児童が30%程いる。
- ・ローマ字の読み、書きが苦手な児童が10%程いる。

### 2. 課題改善に向けた取組状況

#### (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

#### (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。
- ・掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。
- ・スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。

### 3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

#### <方策>

- ①アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図る。
- ②掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。
- ③スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。

#### <検証方法>

- ①英会話に慣れ親しみ積極的に会話しているか取り組み状況を把握する。意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。
- ②ワークシートや教科書を活用して知識、技能の定着状況を把握する。平均を80点から85点に引き上げる。

### 4. 検証結果(成果と課題)

#### <成果>

- ・アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませ、意欲の向上を図ることによって意欲だけではなく、知識技能の向上も見られた。

#### <課題>

- ・掲示物を工夫することができなかったことが課題である。

### 5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・今年度行ったアクティビティを導入などで多く行い、英語に親しませる活動は引き続き行い、掲示物の工夫を行い、更に英語に親しませる。

### 6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・外国語に興味をもち、話す、聞く活動を意欲的に行おうとする児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 道徳科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・教材の内容を自分の事のように捉えられていない児童が20%程いる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。
- ・「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。
- ・友達との意見交換や意見交流の場を毎時間設定する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①ICT機器を用い、教材の挿絵等を映す。
- ②「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行う。

<検証方法>

- ①ワークシートへの記述で把握する。自分の意見を書ける児童を100%にする。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

「自分だったらどうなのか」という問いかけを多く行うことによって自分の意見が書けるようになった児童もいる。

<課題>

- ・ICT機器を用い、教材の挿絵等を映すことを効果的に行うことができなかった。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・授業の流れをパターン化することによって児童の授業への見通しをもたせるほうがよい。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

授業の見通しをもたせて、自分の考えをたくさん表現できる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 総合的な学習の時間〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・知識に個人差があり、そのことによって意欲が低い児童が10%程いる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。
- ・学習の振り返りを学習ごとに行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。
- ②学習の振り返りを学習ごとに行う。

〈検証方法〉

- ①学習のまとめで自分が学んだことを全員が発信できているかを把握する。
- ②学習の振り返りを毎時間、記述・発表させ、確認をする。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高めることができた。

〈課題〉

- ・特になし。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・知識を得るだけではなく、全員が表現できるように他の教科でも学んだことを発信できる活動を行う。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- 学んだことを表現できる児童。